

なるほどのっ



学校教育担当
キャラクター
甲斐善之助

西部教育局からのお役立ち情報 今月のトピック紹介版

12月号



主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けて
～「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」～

特別の教科道徳の授業における支援について

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けて ～「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」～

西部教育局
お役立ち情報
令和7年12月号



一人でも多くの子供たちの資質・能力の育成につながることを期待し、令和7年4月文部科学省よりサポートマガジン「みるみる」が作成されました。

「みるみる」は、目の前にいる子供たちが「できるようになった」「分かるようになった」と言える授業づくりに向けて「主体的・対話的で深い学び」とは何か「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」とはどういうものかを今一度、改めて振り返ることができます。

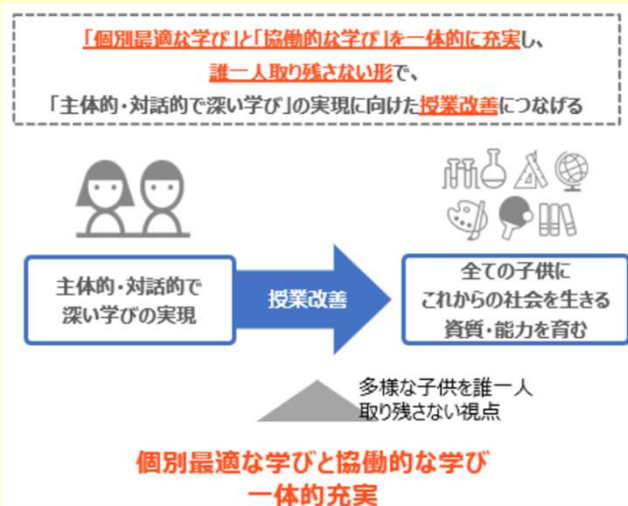
また、特定の指導方法の「型」や「キーワード」を示すのではなく、「主体的・対話的で深い学び」を実現するためのヒントが書かれていますので、これまでの自分自身の授業を振り返り、今後の授業改善につなげていただけたらと思います。



サポートマガジン
『みるみる』
〈文部科学省〉

『みるみる』とは・・・

誰一人取り残すことなくすべての子供たちの可能性を引き出していく「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」に向けた授業づくりには、授業を行う先生方の
・子供たちの多様な特性を踏まえ、一人一人の学びの状況を細やかに“みる”目
・これまでの実践を問い直し、これからの時代に求められる授業を俯瞰的に“みる”目
がこれまで以上に大切になると考えられることから作成されています。

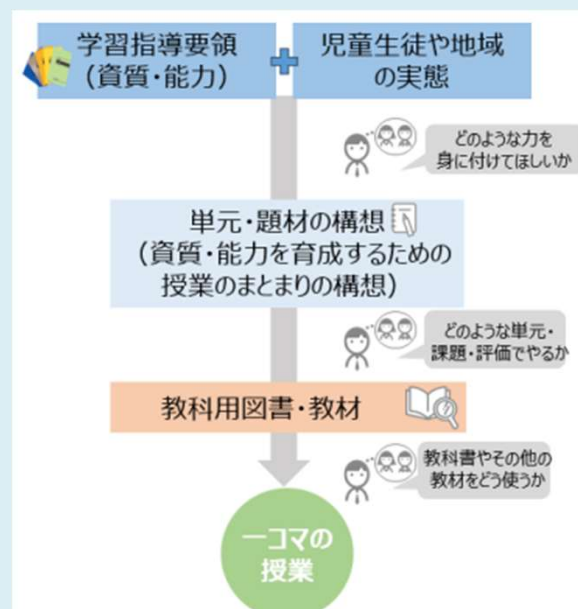


サポートマガジン『みるみる』基本編②より 抜粋

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」

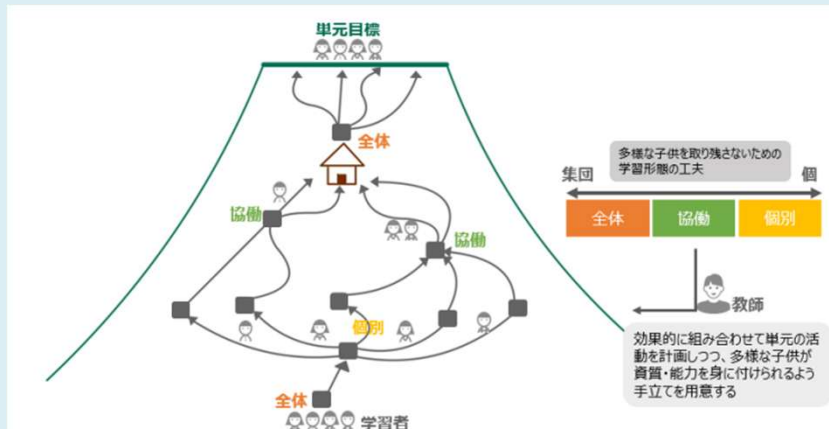
○「主体的・対話的で深い学び」の実現を通じて資質・能力の育成を図っていく、ということが多様な特性を有するすべての子供において実現することが出発点としてあり、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」はそのための具体的な改善の視点であることに留意。

○それ自体が目的化することがないよう、「主体的・対話的で深い学び」を通じた資質・能力の育成という出発点に立ち戻って考えることが大切。



サポートマガジン『みるみる』基本編④より 抜粋

「主体的・対話的で深い学び」を通じて、すべての子供たちに資質・能力を育むための授業改善を考える上で、単元をどのように構成するかというデザインを考えることが重要。



特別の教科道徳の授業における支援について

西部教育局
お役立ち情報
令和7年12月号

特別の教科道徳の授業に参加することが難しい子どもがいます。どのような支援ができるでしょうか。

それでは、学習の流れに沿って、考えてみましょう。
想定した支援が、実際には有効でない場合もありますが、教師が構想しようと努力することで、支援を図る力を蓄えていくことが大切です。

道徳科で求められる質の高い学習指導過程（例）

導入

主題に対する興味・関心を高める
動機付けを図る

展開

教材によって道徳的価値の理解を図る

道徳的価値の意味や大切さを理解する

考え、議論する道徳
＝道徳的価値についての
「深い学び」

価値理解

他者理解

人間理解

道徳的価値を自分のこととして捉える

これまでの自己の状況を見つめ、課題を培う

自己との対話を多様にする
＝自分についての
「深い学び」

自己理解

終末

思いを温めたり
考えをまとめたりする

【価値への方向付け・教材への方向付け】

- 具体物や写真の提示、イラストなどを示して関心を高める。
(例)「みんなで使うものってどんなもの?」と問い、児童の身近にある共用物の写真をいくつか示す。

【教材提示】

- 教材を読むことに対して集中力が続かない。
 - 場面絵、ICTでの提示などにより可視化する。
 - 範読後に、場面絵などを活用してあらすじを確認する。
(例) 補助として準備したホワイトボードに、登場人物や主な様子、セリフを貼って整理する。
- 他のことに興味がうつりやすい。
 - 教師の範読後は教科書を閉じて、言葉探しやよそ事をしにくい環境にする。

【指示や発問】

- 短い言葉で簡潔に伝える。
- キーワードは板書するなどして可視化する。
- 当該児童・生徒へ（集中を促す）合図を送る。
- 当該児童・生徒を適宜見ながらゆっくり話す。

【人物の心情把握】

- 場面絵を見るときに、マークを付けたり余分な絵を隠したりして、主人公や考えたい人物を焦点化する。
- 縮小した場面絵を机上に置き、集中できるようにする。
- 人物の絵に吹き出しをつけ、その中を考えるように促す。
- 役割演技により臨場感を出し、状況を可視化する。
- ワークシートやタブレット端末上に心情を表す文言や顔マーク（喜び、悲しみ、怒り、迷い等）をいくつか示し、選択を促す。

【ワークシート】

- 罫線だけでなくマス目を付けることも考慮する。
- 実態に応じて、書くことにこだわらず、発表を重視する。

【中心発問】

- 価値理解を図る場面で、道徳的価値の意義やよさを話し合うことが難しい。
 - 「主人公に大切なことを教えてあげよう。」などの発問に替える。

【振り返り】

- 自己を見つめる場面で、経験の想起が難しい。
 - 具体的な場面を言葉、イラスト、写真等でいくつか例を示し、それぞれに◎○△を記入して振り返られるようにする。

個別の支援に際しては、本人の思いを考慮することが大切です。
「今度の道徳の学習では、○○を考えたり、自分の意見をまとめたりすることがあります。あなたにもぜひ活躍してほしいと思っています。そのために、あなたには□□を用意して楽しく学べるようにしたいと思っているのですが、どうですか。こうしてほしいなという希望があったら教えてください。」
などと、学習方法について話し合うことが望ましいです。自尊心を傷つけたり、意欲をなくしたりすることのないように配慮しましょう。